

# 日本史

## 古記録・史料

八坂神社文書編纂委員会編

### 新修 八坂神社文書 中世篇

■A5判・クロス装・344頁

本体7,400円＋税

『増補八坂神社文書』編纂時に新たに発見された古代から近代に及ぶ数百点の記録のうち、文禄以前265点を選び出し翻刻、編年順に収録する。モノクロ図版30点を収録するほか、本文末尾に「花押・印章一覧」、巻末に人名索引を付す。八坂神社研究はもとより、神祇史・宗教史・社会・経済史における貴重な史料。

ISBN978-4-653-03911-2 [02/8]

宮地直一監修  
広野三郎校訂/八坂神社社務所編

### 増補 八坂神社文書

■A5判・クロス装・総2,586頁・図版44枚・紙カバー付

全3冊 本体44,000円＋税

本書は八坂神社の有する建内文書2,360余通を宮地直一監修・広野三郎編纂によって翻刻出版されたもの。同社の重要文書は、崇敬・社領など広範囲に亘り、神祇・宗教史・社会・経済史の有数の史料である。復刊にあたり、南北朝期を中心とした神社文書95通を増補し、新たに人名・地名索引(寺社名を含む)を付して、利用の便を図った。

ISBN978-4-653-02742-3 [94/7] [98/4]

佐々木令信編

### 中右記人名索引

■A5判・クロス装・平均529頁

全2冊 本体25,743円＋税

寛治元年(1087)より保延4年(1138)に至る藤原宗忠の日記『中右記』に記載された延べ8万5千項目に及ぶ人名索引。位階・職名から没年等の記述まで抽出し、列記する。『増補 史料大成』所収本を底本に校訂し、年月日の前に巻数を表記、検索に至便なものとなっている。院政期研究・仏教史研究に必備の書。

ISBN978-4-653-02218-3 [93/11]

蔭木英雄編

### 蔭涼軒日録索引

■A5判・クロス装・270頁

本体7,000円＋税

室町時代の表裏を仔細に語る好資料『蔭涼軒日録』検索に待望の本書は、僧侶、俗人、寺社、荘園・鄉村、雑、の五部より成り、適切かつ豊富な注記も施されている。「日録」の多岐にわたる内容を縦横に探索し研究するために至便の書であり、室町時代史研究には必備の書といえる。底本は『続史料大成』所収本。

ISBN978-4-653-01857-5 [89/6] [01/3]

東京大学文学部蔵/山田邦明解説

### 謙信公御書集 1冊 覚上公御書集 2冊

■B5判・クロス装・「謙信公御書集」608頁・解説34頁  
「覚上公御書集」(全2冊)総876頁

全3冊 本体60,000円＋税

本書は、米沢藩に残された上杉謙信・景勝に関する2千点を越える史料を編年で集成した『謙信公御書集』『覚上公御書集』を影印刊行するもの。単に史料を並べるだけでなく、概要を示す文章を前に置き、また内容は御書にとどまらず様々な記事や伝承の類も収録する。越後戦国史のみならず、広く戦国・織豊時代研究の貴重な資料。

ISBN978-4-653-03544-2 [99/5]

時慶記研究会編・校訂(代表 朝尾直弘・藤井謙治)  
西洞院時慶自筆

### とき 慶 き 記 全10巻

■A5判・クロス装・平均300頁

第1巻 9,000円＋税 第2巻 8,000円＋税  
第3巻 8,400円＋税 第4巻 8,800円＋税[13年春刊行予定]

織豊時代から江戸時代の変革期を生きた公家・西洞院時慶自筆の日記(宗教学法人本願寺・天理大学附属天理図書館蔵)を校訂、翻刻。天正15年から寛永16年までのうち、現存する約17年分を収録。医者でもあり、禁裏や本願寺、大坂城の奥向きにも情報網を持っていた時慶の記述は極めて詳細。当時の政治・社会・文化の様相をうかがう格好の一紙史料。

ISBN978-4-653-03760-6 [01/12 ~]

国立歴史民俗博物館蔵/館蔵史料編集会編

貴重典籍叢書 歴史篇18冊  
文学篇22冊

■ 菊判・クロス装・平均550頁・貼函入

歴史篇 全18冊 本体201,500円＋税

第1～6巻 令集解 全6冊 揃本体69,000円＋税  
第7～11巻 続日本紀 全5冊 揃本体59,500円＋税  
第12～18巻 延喜式 全7冊 揃本体73,000円＋税

近藤瓶城編・近藤圭造改定

## 改定 史籍集覧

付総目解題・書目索引・別冊「近藤瓶城翁伝」

■ A5判・クロス装・平均850頁・付別冊

全33冊 本体310,000円＋税

千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館が所蔵する貴重典籍(写本)のうち、「高松宮家伝来禁裏本」「田中穰氏旧蔵典籍古文書」を中心に、重文15点、重美3点を含み善本を精選、影印、解題を付し影印・公刊する。本邦初公刊の史料を多数含む本書は、わが国の歴史・文学研究に大いに寄する重要資料である。  
(《文学篇》詳細は17頁をご覧ください)

〈歴史篇〉 ISBN978-4-653-03520-6 [98/11～01/10]

〈文学篇〉 ISBN978-4-653-03564-0 [99/1～02/9]

書目を通記・纂録・別記・雑・篇外の各部に分け、主に治乱に関する資料を中心に収めるが、国文関係の稀書も多く収録。安土桃山・江戸期の典籍も対象とし、巻冊の多いものも収録した本書は『群書類従』『国史大系』と並ぶ代表的な史籍・文献集である。

ISBN978-4-653-00942-9 [84/4] [97/9]

長友千代治編・解説・索引

重宝記資料集成 本巻45巻  
別巻総索引1巻

—生活史百科事典—

■ A5判・クロス装・平均450頁

〈本巻〉45冊揃 本体397,400円＋税 \*分売可  
〈別巻〉品切

第1～5巻 日用事典(家内重宝記・不断重宝記大全・世界万宝調法記 他)  
第6～9巻 往來物(書札調法記・文章指南調法記・音信重宝記 他)  
第10・11巻 教養・教習(絵入日用女里宝記・女中重宝記 他)  
第12・13巻 文字尽(増補詩文重宝記・篇冠字引重宝記 他)  
第14・15巻 礼法・服飾(武家重宝記・当流嫁娶調法記・進物調法記 他)  
第16～19巻 俗信・年曆(兎唱調法記・方角重宝記・和漢年代重宝記 他)  
第20～22巻 算法・経世(早割算法重宝記・算盤調法記 他)

重宝記とは、近世から近代にかけて行・書写され、庶民の実用書として読まれてきた書物であり、内容は、家庭生活の事柄から医・薬方、農・工・商業、礼法、俗信など生活万般にわたる。庶民の知識・風俗・芸術など、社会生活の諸相を反映した第一等の文献資料「重宝記」約250点を精選して影印、解題・索引を付けて公刊。

ISBN978-4-653-03860-3 [04/8～09/3]

第23～27巻 医方・薬方(小児療治調法記・斎民外科重宝記・薬名調法記 他)  
第28～30巻 農業・工業(庭木重宝記・農家調法記・紙漉重宝記 他)  
第31・32巻 商業・地誌(万買物調法記・米穀金銭相場重宝記 他)  
第33～35巻 料理・食物(江戸町中喰物重宝記・胡椒一味重宝記 他)  
第36～38巻 遊芸・遊里(聞香重宝記・名物重宝記・色道重宝記 他)  
第39～45巻 明治以降(開化重宝記・増補訂正台所重宝記・奥様重宝記 他)  
別巻総索引

長友千代治著

## 重宝記の調方記

—生活史百科事典発掘—

■ 四六判・上製・490頁

本体3,000円＋税

江戸時代から近代にかけて庶民向けに400点以上刊行された独習書「重宝記」。ハンディな懐中本から大型本まで形も様々なら、内容も常識・教養から農工業・医薬の専門知識、口伝・秘術まで多方面に及ぶ。「重宝記」とはなにかという基礎知識から説きおこし、代表的な書物を紹介した初めての「重宝記ガイドブック」。

ISBN978-4-653-03941-9 [05/9]

山本光正著

## 街道絵図の成立と展開

■ A5判・上製・332頁・口絵4頁

本体4,600円＋税

近世に盛んに発行・製作された東海道を中心とする街道絵図について、総合的な系統分類を試みた初めての書。浮世絵や道中記、近代の絵画・鉄道沿線図も視野に入れ概観する。また、後世の多くの写本の原図と目される元禄以前刊行の希少な街道絵図2種「東海道細見図・西海陸細見図」「東海道駅路図・西海道船路図」の影印を収録。

ISBN978-4-653-03963-1 [06/6]

山本光正著

## 東海道の創造力

■ 四六判・上製・285頁

本体2,600円＋税

『伊勢物語』第九段東下りから岡本かの子の短編『東海道五十三次』に至るまで、多くの歌枕・名所を持ち、多様な文学・美術作品を生み出してきた東海道。古代～近世の徒歩の「旅」と近代の鉄道等の交通手段を利用した「旅行」、作品により作り出された名所等の視点から、旅人たちの姿と作品創造の原動力となった東海道の魅力に迫る。

ISBN978-4-653-03969-3 [08/6]

武知京三著

## 近代日本と地域交通

—伊勢電と大軌系(近鉄)資本の動向—

〔日本資本主義史叢書〕

■ B6判・クロス装・335頁

本体3,700円＋税

東への進出を目指す大阪電気軌道系(大軌系・現近鉄)資本が、三重県で伊勢電気鉄道を合併し、更に名古屋までの長距離都市間電鉄網を確立するまでの企業の発展史。政府と鉄道企業との関係、経営理念・経営戦略等の多面的な分析とともに、わが国の鉄道政策を踏まえ、戦時交通統制問題も展望する。

ISBN978-4-653-02886-4 [94/12]

静岡県編・相田二郎校訂

## 静岡県史料

■ A5判・クロス装・平均986頁・古文書、金石図版355枚

全5冊 本体94,000円＋税

静岡県内外に所蔵される同県の中世古文書集。概ね平安末期から、文禄・慶長に至るもので、地域別に大別し、かつ所蔵者別(家わけ)に分類、各年代順に配列された一級史料。校訂は古文書学の権威、相田二郎氏によるもので、静岡県史編纂事業の一つとして、昭和7年から10余年の歳月をかけて大成されたもの。多数の文書図版も再録する。

ISBN978-4-653-02728-7 [94/4]

宮崎県立図書館編

## 宮崎県史料

■ A5判・クロス装・4,226頁

全8冊 本体76,000円＋税

高鍋藩と佐土原藩の藩史料を収録する。「高鍋藩史」は家中の動静、百姓逃散など藩が対処しなければならなかった諸事象万般を逐一記述する。「佐土原藩史」は嶋津家としての格式を備えた藩主や諸行事、幕府・諸藩との贈答を中心に藩政の動向を記録する。いずれも史料の価値は極めて高く、藩政史及び郷土史を研究する上で必備の史料。

ISBN978-4-653-03111-6 [95/10]

黒川道祐編・立川美彦訓読

## 訓読 雍州府志

■ A5判・クロス装・602頁

本体10,500円＋税

〈残部僅少〉

江戸前期に刊行された全十巻十冊の『雍州府志』は、元安芸藩儒医黒川道祐によって漢文で記された山城の国(京都府南部)の地誌である。古跡・寺社・風俗・山川・土産等、歴史・文学の資料としても貴重な「京都大百科」の原典ともいべき同書を全篇訓読、充実した索引を付し、利用の便を図った。

ISBN978-4-653-03302-8 [97/4]

本巻 野間光辰編／新索引 木田章義監修・林泰弘編

## 新修 京都叢書

本巻2・3巻  
新索引2巻

■ A5判・クロス装・本巻平均590頁・新索引総898頁

〈本巻〉23冊揃 本体173,500円＋税  
〈新索引〉24・25巻 本体25,000円＋税

「京童」「京雀」等、京都に関わる江戸期の代表的な書物を集大成。洛中・洛外の社寺、名所旧跡、地誌、年中行事、諸職名匠、各町の由来、沿革と変遷など、近世京都の姿をすすところなく伝える。本文は原本との厳密な校訂を施し、異同は頭注に記した。新たに、「和歌・俳諧類索引」約4千項目を含む約5万項目を収録した新索引を刊行。〈詳細は63頁〉 ISBN978-4-653-03944-0(全25冊)-02596-2(本巻)-03943-3(新索引) [67/9～06/4]

田中家文書調査会編

## 宇和海浦方史料 三浦田中家文書

■ A5判・クロス装・平均600頁

全4冊 本体47,000円＋税

愛媛県宇和島市の田中家に伝存する文書は、近世庄屋文書の中でも随一の豊富な資料を有する。有力な網元でもあった同家の御用留的日記「御書出魁所此外珍事為覚悟代々記」や網元の経営記録で漁業史料の白眉「漁事繁栄記」等多数の文書を翻刻。宇和島藩政を反映する貴重な記録であり、漁村史から近世史を照らし出す重要資料。〈分売可〉

ISBN978-4-653-03555-8 [01/2～04/2]

大江 篤著

## 日本古代の神と霊

■ A5判・上製・314頁

本体4,600円＋税

「神」「霊」に関わる「祟」「怨霊」、そして「供養」をキーワードに、古代の史料を読み解く。天変地異・政変がひき起こす争乱や人智を超えた怪異に曝されてきた人々が認知・畏怖した「神」「霊」の存在と、その背後に隠された、歴史的事実を探る試み。「神」と「霊」が照射する、古代の人々の心のうちにせまる意欲作。

ISBN978-4-653-03967-9 [07/2]

東アジア恠異学会編

き  
亀ぼく  
卜歴史の地層に秘められた  
うらないの技をほりおこす

■ B6判・上製・272頁

本体2,500円＋税

ISBN978-4-653-03962-4 [06/5]

東アジア恠異学会編

## 恠異学の技法

■ A5判・上製・440頁

本体3,000円＋税

東アジアで古代より行われてきた古い「亀卜」。古代、中世では国家運営の重要な指針とされていたにも関わらず、亀卜の技法は秘事・口伝であったため、全容は明らかにされていない。恠異学はもとより、歴史学・動物学・民俗学・考古学など学際的な共同研究のもとで、ウラを読む技と知を考える。

「恠異」はどのように起こったのか、「恠異」を人々はどう受けとめたのか、そして「恠異」の背後にひそむものは何か。史料に記された「恠異」は現在まで歴史学研究的の枠外におかれ、正面から「恠異」をとりあげた研究は極めて少数であった。まさに際物たる「恠異」を歴史から汲み上げ正規の研究対象として読み解くことで、浮かび上がる新たな「歴史」を探る、新機軸の一書。

ISBN978-4-653-03846-7 [03/11] [07/1]

井原今朝男著

## 増補 中世寺院と民衆

■ 四六判・上製・368頁

〈書籍版〉本体3,400円＋税

〈電子出版〉今夏配信予定

戦争、飢饉、疫病が人々を絶え間なく襲った中世、寺院はどのような場として存在したのか。鎌倉新仏教の各教祖や教義、また権門寺院中心の研究に限られていた従来の中世仏教像を見直し、宗派・学派・規模の違いを越えた「中世寺院」のありのままの姿を探る。好評を博した初版本に中世寺院の国際性と外交僧の活躍等を加えた増補版。

ISBN978-4-653-04036-1 [09/1]

クレインス フレデリック著

## 十七世紀のオランダ人が見た日本

■ 四六判・上製・252頁

本体2,600円＋税

幕藩体制下の17世紀、鎖国の徹底により安定した平和を築いた日本と、日本との交易を独占し「黄金時代」と呼ばれる経済的・文化的隆盛期を築いたオランダ。旅行記や東インド会社の文書、イエズス会士の報告書など、日本情報の伝達経路をたどり、当時のオランダ人たちの日本観がどのように形成されたのかを明らかにする。

ISBN978-4-653-04046-0 [10/7]

クレインス フレデリック著

## 江戸時代における機械論的身体観の受容

■ 菊判・クロス装・472頁・函入・モノクロ図版227点

本体12,000円＋税

人間の身体は動く機械である——17・18世紀西洋医学思想の礎をなす機械論的身体観は、江戸時代の蘭学者、医学者たちにどのように理解されたのか。蘭方医学教科書『医範提綱』や舶載蘭書『プールハーフェ儀言解』を取り上げ、ヨーロッパ原典との照合を軸とした文献学的分析により日本近代医学の黎明を説き明かす画期的論考。

ISBN978-4-653-03958-7 [06/2]

丸山健夫著

## ペリーとヘボンと横浜開港

—情報学から見た幕末—

■ 四六判・上製・272頁

本体2,000円＋税

横浜開港を軸に、ペリーとヘボンの来航にまつわる、知られざる人物ネットワークの点と線を明らかにする。辞書・通訳等の言語面をはじめ、当時の対外交流事情にまつわる興味深いエピソードをふんだんにもりこんだ本書は、情報学という視点から幕末を語る、他に類を見ない、知的好奇心を刺激する一冊である。

ISBN978-4-653-04035-4 [09/10]